

ESSAY いたずら

倉元 信行

18

散髪屋さん

小さいころから散髪屋が嫌いだった。そのころは床屋さんと呼んでいたが、あの椅子にじっと座らされるのが我慢ならないのである。お尻がむずむずしてくる。

こんな訳で私が散髪屋のお世話になったのは、自分の結婚式の一週間前が最後となった。その時からずっと、自分の髪は自分で切っている。道具は、ちゃんとした“すきばさみ”と“ストレートばさみ”の2本を使う。

うしろは切れないでしょう、と言う人がいるがそんなことはない。鏡を使わなくても、指先は髪の長さやボリュームを微妙に捕らえることができるから、そんなに難しくはない。なにより、10分もあれば済んでしまうのだからありがたい。

残念なのは、年々切る量が少なくて済むようになってきていることである。

私は、22才を頭とする3人の娘たちの散髪

屋でもある。娘たちは、美容院に行くこともあるが、だいたい私に髪切ってもらって、頼みにくる。

ロングヘアをショートにでもすると、髪は広げた新聞紙一杯の山盛りになる。

お父さんにあげたいなと、悔しいことを言う。セシルカット(と今呼ぶのかどうか知らないが)も簡単にできる。時間は長くても20分程度だ。

先日、20才になる次女が美容院に行った時、前回いつ切ったのと尋ねられた。

「3か月前、お父さんに」

娘が答えると、エーッとびっくりされて、「あなたのお父さんを見てみたいわ」と言われたそうである。

妻の髪をカットすることも時々あるから、私は家族全員の散髪屋さんである。

包丁研ぎも私の仕事である。二ヶ月に一

度ほど、数本をまとめて研ぐ。

このあいだデパートの売り場でプロがやるのを見たが、自分がやるのと基本的に同じだと思った。

押す時と引く時に、包丁の背の浮かしを一定にするのが一番大事な事で、下手だと引く時に立ってしまい、これを“舟をこぐ”と思うのだそうである。

もう一つ大事なのが面出して、砥石同士とか、煉瓦相手とかで砥石の表面を削って平面を出しておくのだそうである。

こちらは、私はやったことが無い。使っていると砥石はだんだん真ん中がへこんでくるが、私はそのカーブに沿って、背を浮かす高さを変えないように包丁を滑らせる。

こちらの方がなんだか名人芸のようで面白い。

